

4 次こそお帰りなさいの会に



境遇と重なり、胸を打ちます。

池田さんは言います。

「中学のバドミントン部でも一緒に、あの日も、拉致されるほんの十五分前まで、隣のコートで一緒に練習してたんです。めぐみさんは新潟市の強化選手に選ばれてがんばっていました。けれどそれが、私が見た最後の姿でした…」

いかがでしたか。

「自分の子供もや家族、友達のことだつたら、放つてはおけないはずです」という池田さん。活動する中で出会った子どもたちからは、「次こそは、めぐみさんが帰つてきて、お帰りなさいの会にしたい」という声も聞かれるそうです。

早紀江さんただ一人になつてしまひました。拉致問題という決してあつてはならない人権侵害を風化させることなく、私たち一人一人が自分事として考えていかなくてはなりません。今日は、小学六年级だつためぐみさんの歌声を、最後にお聞きください。

では、また。

「めぐみさんは、小学六年生から同じクラスでした。明るくて少しひょうきんなところもあるめぐみさんは、転校してきますぐにクラスに溶けこみ、給食の時間に誰も話さずシーノとししいふと、必ず話題を提供してくれて、友達の笑顔を見て、自分も喜ぶ。そんな子でした」と池田さん。

小学校では合唱部で、卒業の謝恩会では「流浪の民」という合唱曲のソロパートを任されるほど上手だったそうです。めぐみさんが歌つたのは、「慣れし故郷を放たれて 夢に樂土求めたり」という部分。「故郷から追放されたジプシーが、眠りの中で樂園を夢見る」という歌詞が、突然ふることを奪われためぐみさんの

